

=市全体、各学校、子ども達、関係者の様子をお届け=

CS通信 3号

一名護市教育委員会 令和5年8月29日発行



CS推進スローガン（導入期）

学校・家庭・地域みんなが子どもたちの「せんせい」です

CSで学校・家庭・地域の想いを共有

3号テーマ

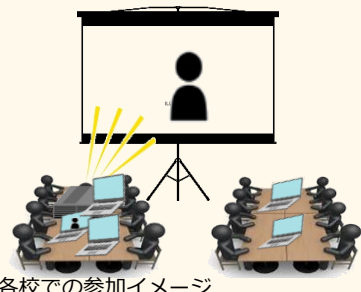
～名護市CSオンライン研修会～



コミュニティ・スクールの仕組みを生かした「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて共通理解を深め、各学校での実践につなげることを目的にCS先進県山口県の校長先生を講師に7月27日に研修会を行いましたので紹介します。参加者は、教職員を中心に学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員等の250名あまりが参加し、掲示板アプリ「パドレット」を活用し、オンライン研修ではあるものの双方向の研修会とすることでより深い学びにつながりました。



オンライン研修会の様子



各校での参加イメージ



掲示板アプリのパドレットで双方向の研修



講師の相田康弘先生

相田 康弘 氏（山口県美祢市立大嶺小学校校長）

福岡県久留米市出身。山口大学教育学部を卒業後、中学校数学の教員としてスタート。青年海外協力隊としてフィリピンで数学教師（2000～2002年）。高等学校、中等教育学校で勤務（2004年～）。山口県美祢市教育委員会でCS担当（2013～2014年）。文部科学省総合教育政策局地域学習推進課でCS担当（2015～2018年）。山口県教育庁義務教育課（2019年）。山口県浅江中学校教頭（2020年）。山口県教育庁義務教育課（2021～2022年）。2023年～現職。2022年度まで文部科学省CSマイスターとして活動。

持続可能な取組にしていくために大切なことは…

みんなで一緒に考えること

コミュニティ・スクールでよかった！



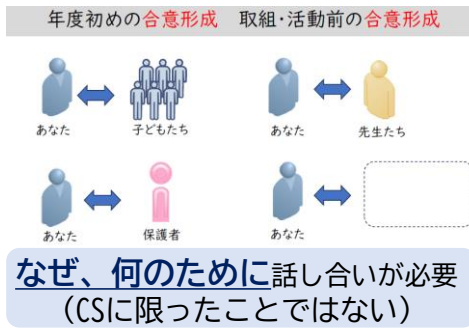
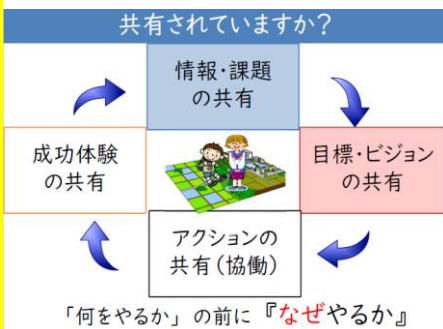
少子高齢化、複雑化・多様化する予測困難な社会。20年後の名護市はどうなっている？「夢」や「希望」がもてる名護市？子ども達の未来、地域（名護市）の未来について考える場をCSで。

「コミュニティ・スクール」の仕組みを生かして子どもたちや地域の未来を一緒に考える



- ①多くの関係者で熟議
⇒学校・家庭・地域の想いが反映されているか
- ②話し合われたことを共有し具現化
⇒子ども達に多くの大人が関わる
- ③地域・保護者との信頼関係
⇒交流・会話(日常的) + 学校運営協議会(公式)

複雑化・多様化する社会構造の中で、**目標・ビジョンの共有・合意形成**は必須



相田先生資料より

支援 ⇒ 協働 ⇨

協働：同じ目標に向けて対等な立場で協力して共に働くこと

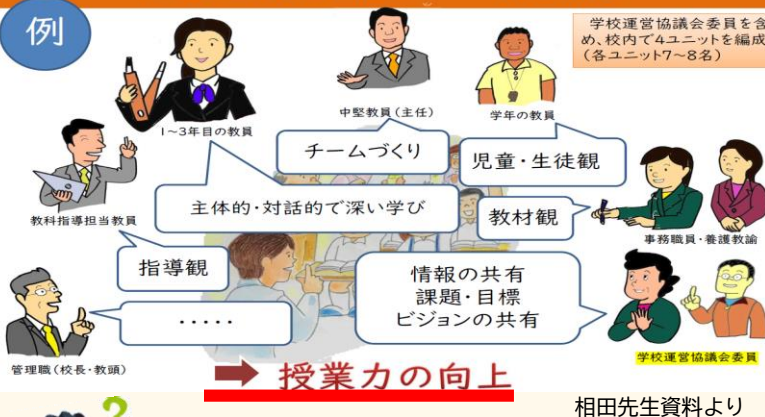
- ◇ 全体の合意形成(共通目標の設定)が必要
- ◇ 当事者意識を重視したきめ細かい対応が必要
- ◇ 学校・地域それぞれの主体的な取組が必要
- ◇ 関わった人々で「振り返り」を行う場の設定が必要



相田先生資料より

多様な参画によるユニット型研修(授業参観⇒振り返り)

教育課程の編成や授業づくりについても、オブザーバーではなく、意見が言える立場で参加できる 学校運営協議会委員の参画による ～ユニット型研修～



参加者の声

- 20年後の名護市がいい環境になるよう一歩ずつ進んでいきたい。
- 何かに取り組むとなると負担感で抵抗があったが、協働(同じ目標に向かって)して取り組むことが重要と聞いて、安心して取り組めると思った。
- 授業で「何をやるか」ばかり考えていたが、その前に「なぜやるか」を共有することが大事。どうなりたいかビジョンの共有を大切にしたい。
- CSは今後大切で必要性をすごく感じたが、課題が多いのも事実なので一つ一つクリアしていきたい。

CS通信ってなに？

1. 名護市全体でのCS推進の取組み発信
2. 各学校でのCSの取組み発信
3. 先生の地域と連携した授業づくりを共有
4. 子ども達の地域に根差した活動を発信

